

所沢市企画展『関東大震災百年』 関連講座

令和5年（2023年）9月16日

先人が残したメッセージから学ぶ

徳田光希（栄東中学校）

篠田海遥（大分大学）

荒井賢一（栄東高等学校）

karai@ship.sakaehigashi.ed.jp

目次

◎理科研究部の紹介

◎関東地震について

◎埼玉県内の関東地震に関する記録から学ぶ

さいたま市・春日部市・幸手市・川口市・

埼玉県北西部域・所沢市

↑ 県内の三大被災地

旧粕壁町・幸手町・川口町

◎『関東大震災二百年』は注目されるか！？

◎理科学研究部の紹介

地震に関する最初の本格的な活動は平成21年（2009年）

『三陸地方の巡検から学ぶ地震・津波防災』

東北大学にて 津波を学ぶ
(今村文彦先生のご指導を頂く)



明治29年三陸津波の最高到達地点
(岩手県大船渡市綾里 (38m))



平成23年（2011年）

大正12年（1923年） 関東地震を学び始める（2011年）



歴史地震を学ぶ重要性
武村雅之先生（名古屋大学）



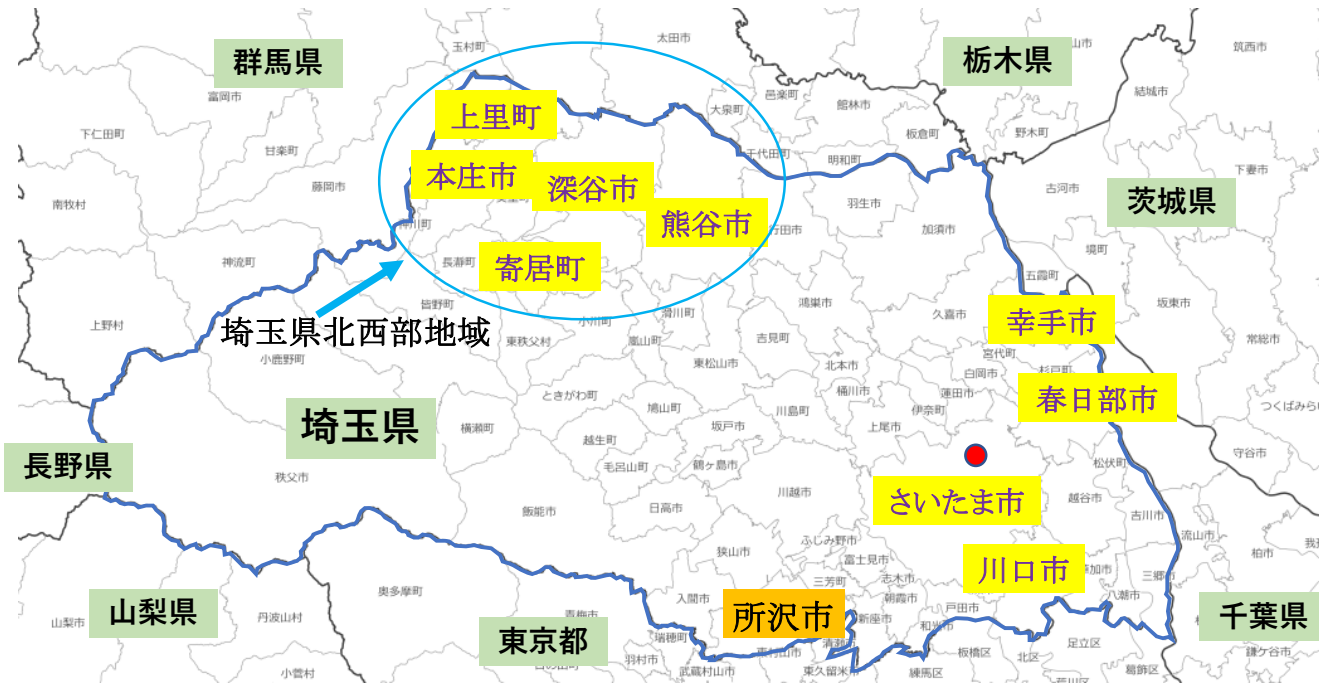
マスコミ（伝え手）から見た地震
中川和也氏（時事通信社）

関東大震災の最大の被災地で学ぶ
東京都墨田区（横網町公園とその周辺）

平成25年（2013年）

埼玉県内を対象とした関東地震の研究に着手

1923年関東地震の記録を調査した地域(市と町)



● 栄東中学・高等学校

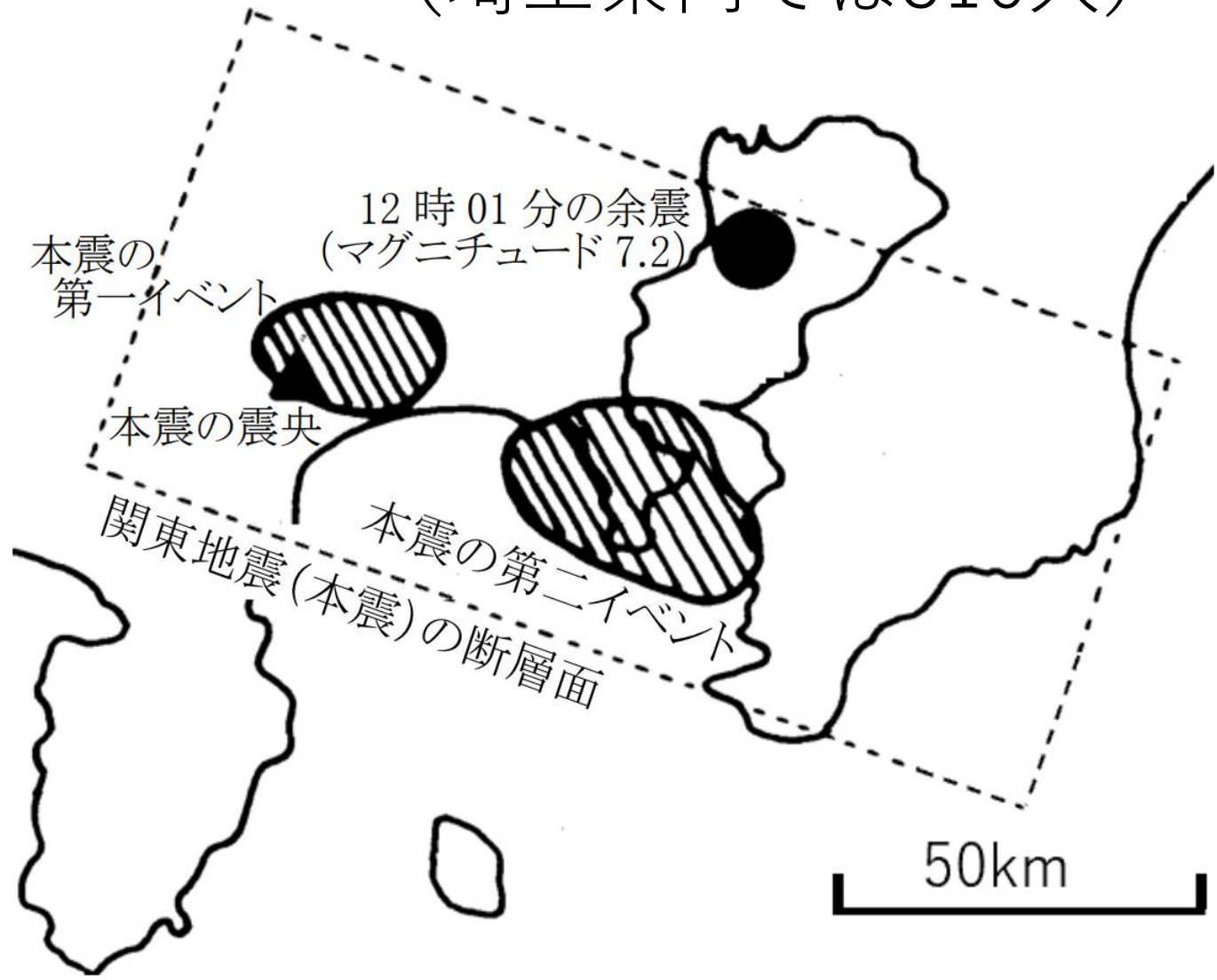


当時の高校1年生と中学3年生による
砂氷川社(さいたま市見沼区)の石碑調査

【被害（抜粋）】

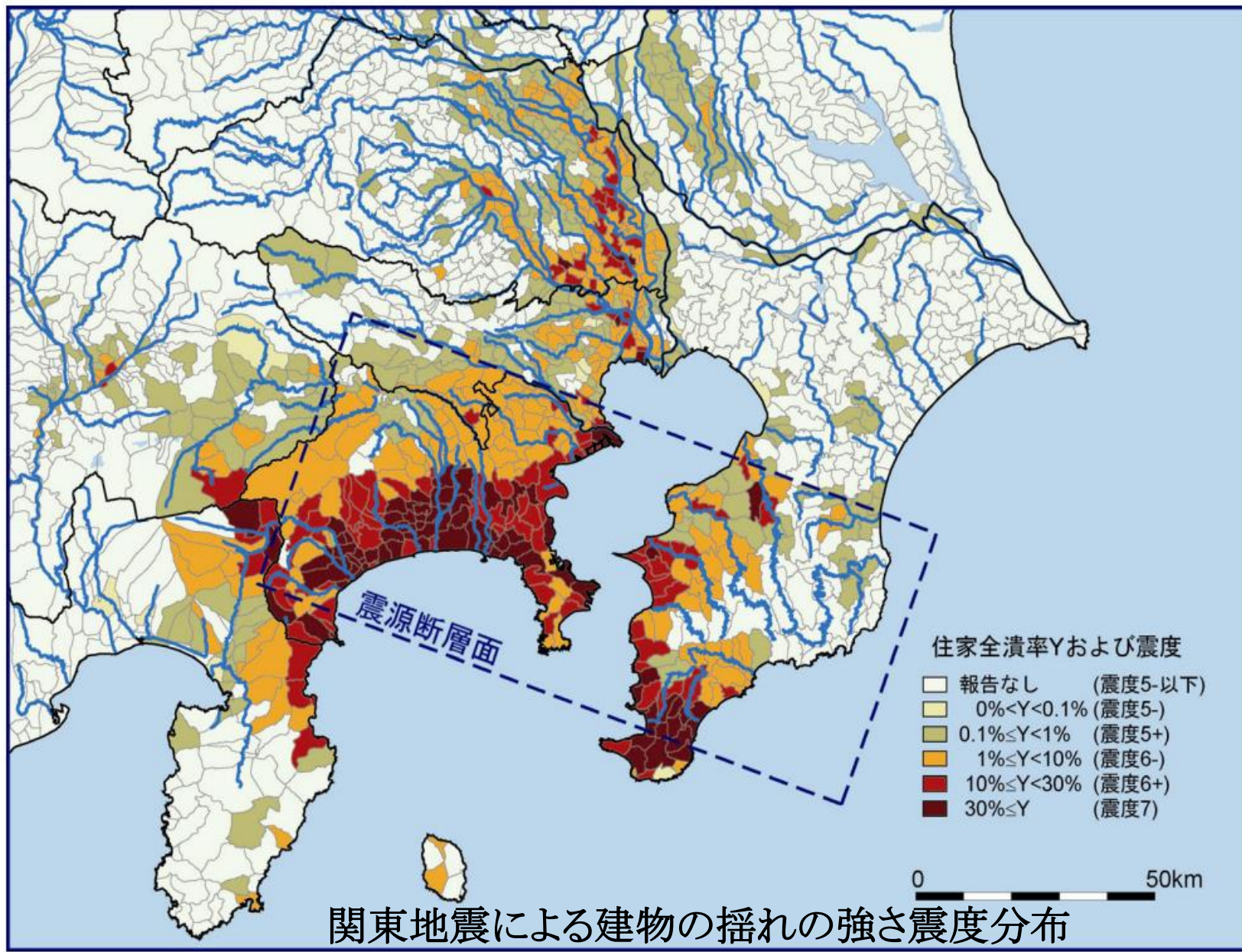
- ・ 揺れによる建物の被害
(神奈川県や千葉県で
全潰率100%の地域が多い)
- ・ 火災 (東京 本所の被服廠で
約4万4000人の死者)
- ・ 津波 (熱海で12m)
- ・ 多数の山崩れや崖崩れ
(根府川駅に停車中の列車が
海に流される)

死者 10万5000人程
(埼玉県内では316人)



関東地震の断層面と本震直後の余震(●印)

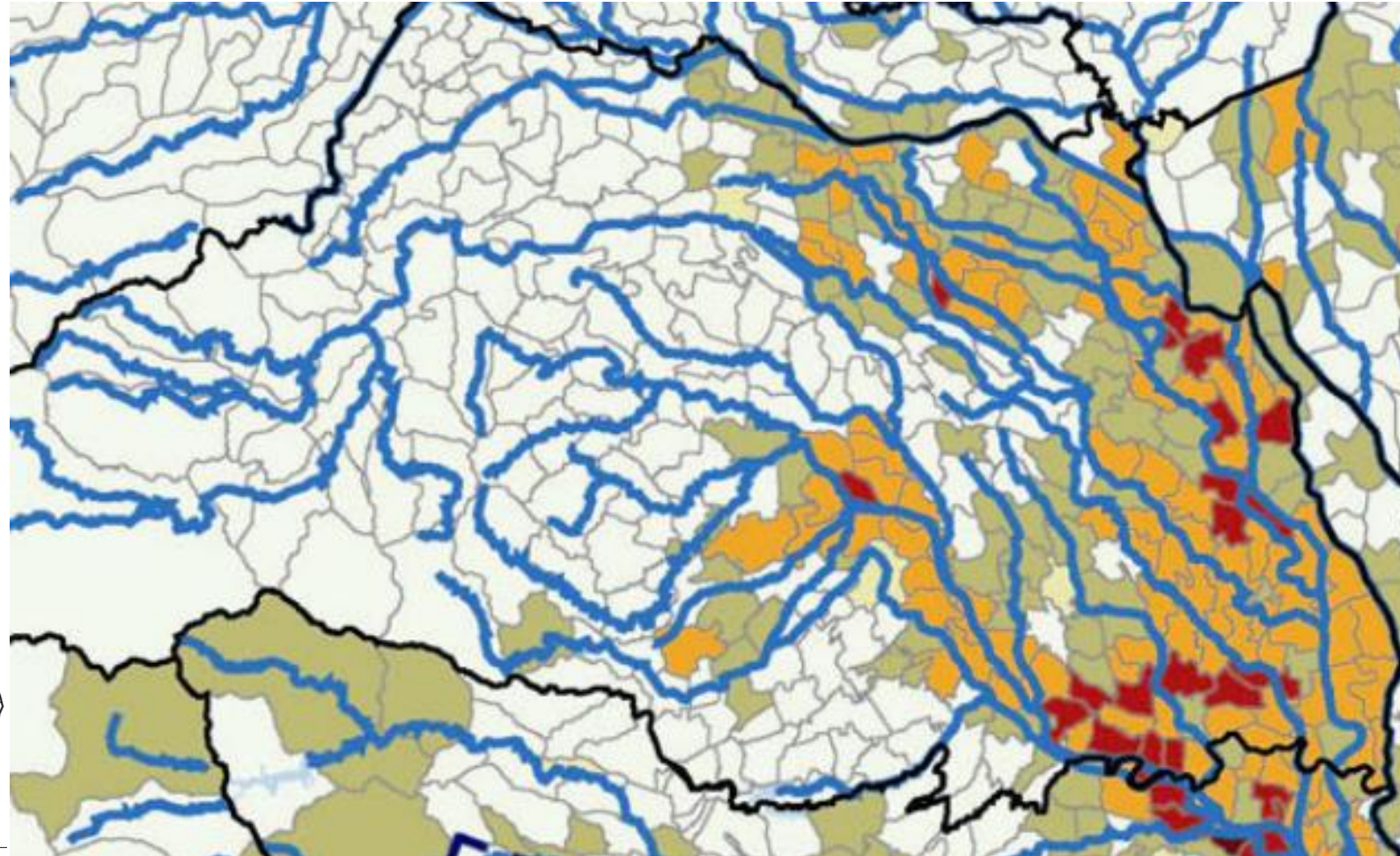
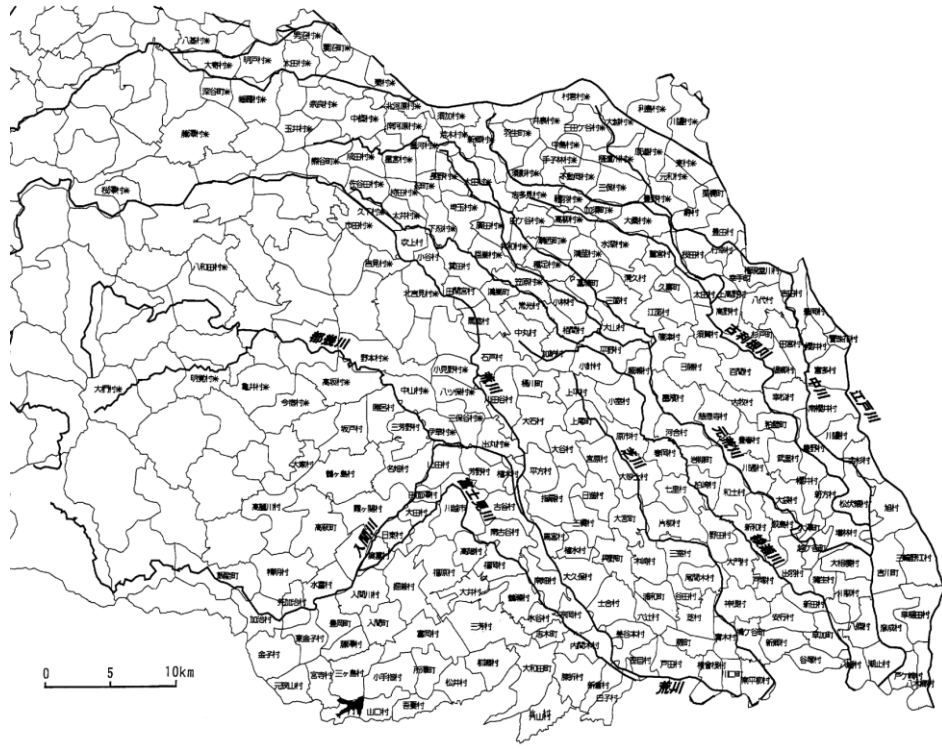
引用
鹿島建設のホームページ(2003年9月)
特集:関東大震災を知る



引用：諸井孝文・武村雅之，2002，関東地震（1923年9月1日）による木造住家被データの整理と震度分布の推定，日本地震工学会論文集 第2巻，第3号，35-71

◎埼玉県内の記録から学ぶ

さいたま市内では、現在の気象庁震度階級で7～5弱程度、県内の三大被災地（旧粕壁町・旧幸手町・旧川口町）を含む3市では、震度6強～6弱程度が分布をする。一方、所沢市内では、震度5強～5弱程度の揺れであったと推定されている。



22. 白鬚神社の石碑



(正面上段) 碑文
震災記念碑

(正面下段) 碑文

世界未曾有ノ震災ハ時大正十二年「紀元二千五百八十三年」九月一日午前ノ十一時五十八分關東一體ノ地ヲ震動シ瞬間ニ大廈高樓橋架軌道悉ク破ノ壊サレ死傷者數十萬屍累々トシテ交通絶ヒ物凄キニ悲憤ノ涙■(憫がさんずい)ルノ外ナク餘震■(屢ががんだれ)々起リ屋内危険ニシテ露營ス其ノ有様ハ筆筈ニ盡シ難クノ壊塵セル家屋ヨリ猛火四散シ帝都ノ盛觀モ哀レ三日ノ火炎ニ舐メ盡サノ荒涼タル一大焦土ト化シ百萬ノ罹災民ハ焰ニ追ハレ食ニ饑ヒ住居無ノキ裡ニ不逞鮮人襲来ノ流言蜚語ニ奮起シ遂ニ自警團ヲ組織シ殘焼地域ノ維持ニ努メシカ戒嚴令行ハレ軍隊ノ出働ト共ニ其ノ秩序ハ忽チ恢復ノス畏クモ 攝政宮殿下ニハ深ク御宸襟悩シ給ヒ御内帑金御下賜被為有ノ當美谷本邑ニ於テモ被害夥シク倒壊住家七十二戸内大字松本新田十四ノ戸ニシテ其ノ他建物ノ崩斜セルモノ全村ニ互ル此時鎮守白鬚神社ノ社ノ殿倒潰シタルモ發起者及当字一同其他有志ノ力ニ依リ茲ニ復旧成ル所ノ以ナリ矣ノ大正十三年十月二十三日建之 應需 菅原善正 謹書

25. 旧国鉄大宮工場（現在の大宮総合車両センター）で起きたこと

- ・旧大宮町（現在の大宮駅周辺）は震度5弱程度
- ・家屋の倒壊による犠牲者はなし
- ・旧国鉄大宮工場では、煉瓦づくりの建物や高さ約24mの煙突の倒壊で死者28名、負傷者21名



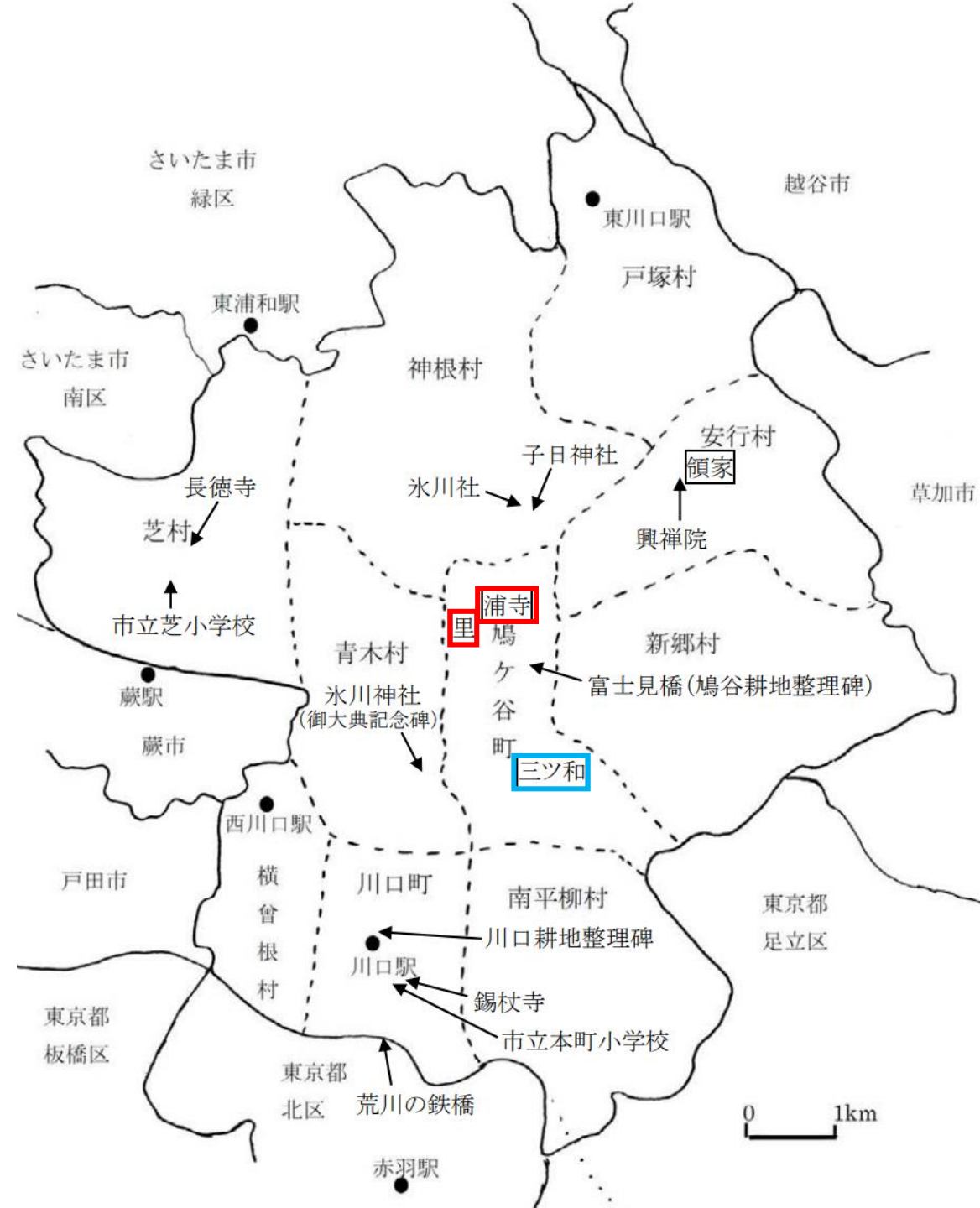
車両センターの敷地内に建つ
「思い出の碑」

引用：歴史地震 第30号（石黒 他（2015））

埼玉県さいたま市に残る1923年関東地震に関する石碑 その2

當鳩谷町(約千二百戸)ノ損害ハ/住宅全潰 二十五棟(式十八戸)/半潰 十五棟/倉庫全潰 参棟
 /工場〃 八棟/物置ナド〃 七棟/倉庫等半潰 十四棟/神社半潰 壹棟/寺院半潰 壹棟/救助
 米ヲ受ケタルモノ二十八人 一人一食米一合/ミソ
 十匁/小屋掛料ヲ受ケタルモノ二十四人/一人八
 円ヅツ/當里字ハ約百五十戸ノ内全潰六戸、多少ノ
被害/ヲ受ケヌモノハナイ、浦寺最モ被害多ク三和
ハ被/害ホトンドナシ 新田村、安行ノ平地方面、新
 町、上下根岸、在家、芝、/浦和辻、ノ線被害激甚全
 潰無数、/東京から来た人は火事の話、田舎は地震
 潰れの/話しでもち切り、/ (輪)

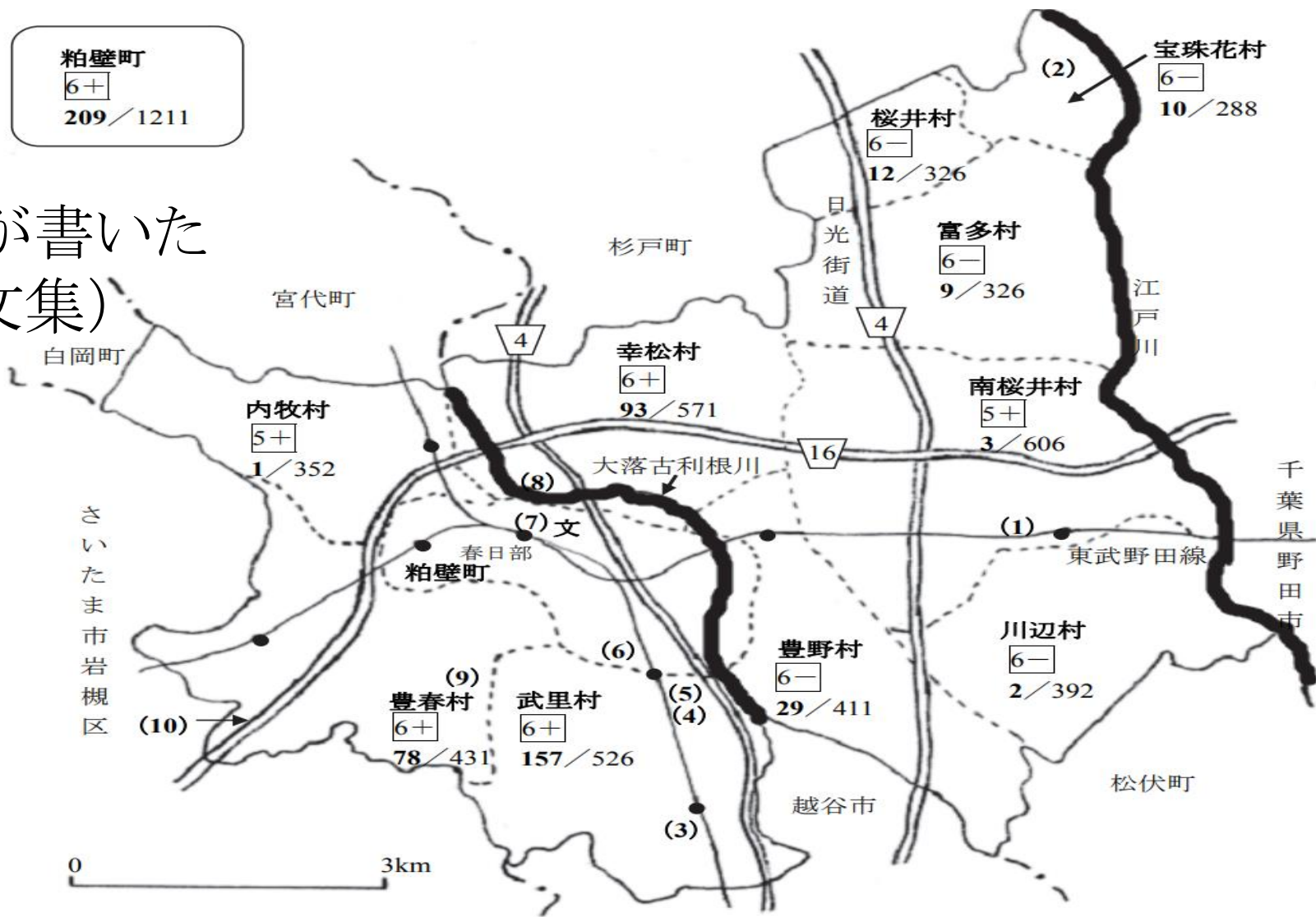
引用：歴史地震 第34号(荒井・篠田(2019))
 埼玉県川口市に残る1923年関東地震に
 関する記録



春日部市に残る記録

- 石碑11基
- 震災の直後に当時の児童が書いた作文集(大震災記念児童文集)
- 震災写真帳

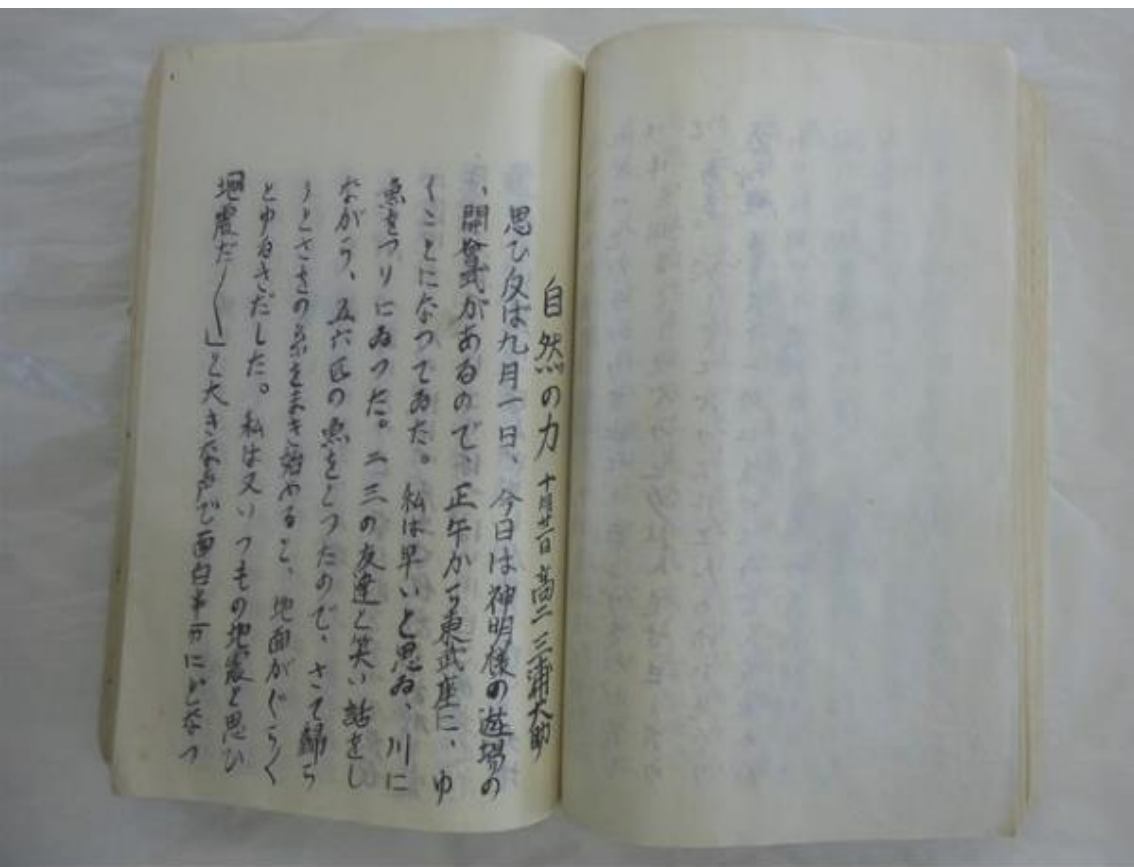
粕壁町
 6+
 209/1211



<p>【凡例】</p> <p>(1)～(10) : §3 で記述をする寺社と小学校の位置</p> <p>文 : 粕壁小学校の位置 (春日部市郷土資料館は, 粕壁小学校に隣接)</p> <p>破線 : 旧町村の境界</p> <p>● : 東武鉄道の駅</p> <p>▽ : 国道(4号線および16号線)</p>	<p>旧町村名</p> <p>震度 全潰数/戸数</p>
--	--

引用: 歴史地震 第32号(荒井 他(2017))
 埼玉県春日部市に残る1923年関東地震に関する石碑

思ひ反ば（返せば）九月一日、今日は神明様の遊場の、開會式があるので、正午から東武座に、ゆくことになつてみた。私は早いと思ひ、川に魚をつりにあつた。二三の友達と笑い話をしながら、五六匹の魚をとつたので、さて帰らうとさを（竿）の糸をまき始めると、地面がぐら／＼とゆるきだした。私は又いつもの地震と思ひ「地震だ／＼」と大きな声で面白半分にとどなつた。と、其のしゅん間どど／＼／＼と音がしたと思ふとぐらぐらと大ゆれにゆれだした。私は始めて驚ろいて、すばやくかきねにかじりついた。橋の上にかそりんぽんぷを見てみた人々が、一時にどつと、なだれをうつて左右に逃げた。川の波は一尺五寸位高くあがり家はつぶれて、ほこりは一ぱい川にこめ立てて、向う河岸は、ぼんやりしか見へない。大地震は五分位で止まつたが、後からつづい起る余震に家にかへる勇氣もない。少し地震がやんできた。



引用：歴史地震 第32号(荒井 他(2017))
埼玉県春日部市郷土資料館に残る1923年関東地震に関する記録 ～大震災記念児童文集と大正12年粕壁町震災写真帳～

地震の揺れが長く感じられた
ことも記されている →

埼玉県幸手市および埼玉県北西部地域に残る 1923年関東大震災の記録

大分大学 理工学部 自然科学コース 2年
(栄東中学校2019年卒・栄東高等学校2022年卒)

篠田 海遥

経歴紹介

2016年 栄東中学校入学、理科研究部入部

2017年 **幸手市**に残る関東大震災の記録調査を実施

2018年 **川口市**に残る関東大震災の記録調査を実施

2019年 栄東中学校卒業、栄東高等学校入学

2020年～2021年 **埼玉県北西部**地域に残る関東大震災の記録調査を実施

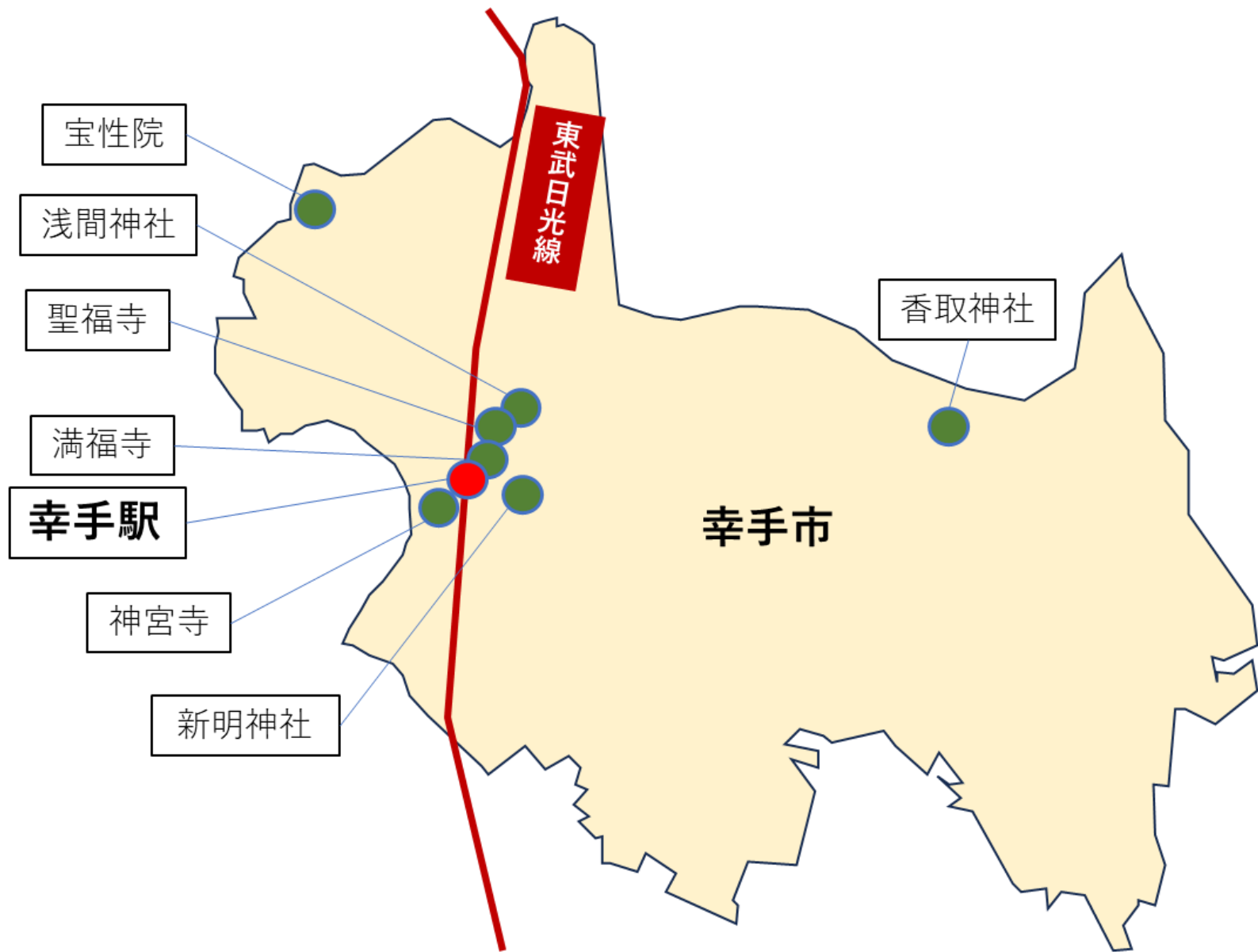
2022年 栄東高等学校卒業、大分大学入学

現在に至る

①幸手市に残る1923年関東地震の記録

◎**幸手市**（旧幸手町）は、春日部市（旧粕壁町）・川口市（旧川口町）と共に埼玉県の三大被災地と呼ばれている。

◎幸手市（旧幸手町）には、『幸手町のかたりべ』と神明神社・香取神社・聖福寺・満福寺・神宮寺・浅間神社の6か所の石碑、宝性院内の木碑に関東地震にかかわる記述が残されている。



幸手町のかたりべ

◎『幸手町のかたりべ』とは、現在の幸手市が歩んだ生々しい歴史をまとめたものである。第一集で関東大震災が扱われている。

◎50人の震災被害にあった方々が文集を残している。文集内に以下の記述があった人数をまとめる。

- ①本震による被害の記述（45人）
- ②余震による被害の記述（8人）
- ③本震後外にバラックを建てるなど野宿を行った等の記述（43人）
- ④地割れ・液状化に関する記述（18人）
- ⑤東京での火災の記述（33人）
- ⑥東京からの避難民に関する記述（23人）
- ⑦流言（デマ）に関する記述（24人）

神明神社に残る石碑

- ◎神明神社には、関東地震によって町と神明神社の被害について記された石碑がある。
- ◎碑文の要約は次ページのとおりである。



大正12年9月1日は、未明から南風と雨が強かったが11時30分頃になると、雨は収まったが蒸し暑く、暗く低い雲が垂れ込めていた。11時57分に突如上下動を伴う大地震が発生した。瓦が飛び、砂塵が舞って、人々の叫び声と家屋の倒壊する音が響いて、辺りは騒然としていた。その結果、旧幸手町内の1000戸余りの家屋のうち、約360戸が一瞬にして全壊し、半壊や大破した家屋は500戸以上にのぼった。死者は9名で、重軽傷者は30名余りにのぼった。これは、関東地方における未曾有の大地震であった。その上、様々な強さの余震が立て続けに起こったため、安心して屋内に居られず数日の間、屋外に避難していた。当神明神社の拝殿も被害を受けて、倒壊した。本殿は辛うじて倒壊を免れたが、大破したため応急的な修理を施した。拝殿の建立を計画したが、旧幸手町は甚大な被害を受けたため、拝殿を建て直すお金が無かった。そのため、「拝殿新築奉賛会」を組織して、五ヵ年計画の方策を立てた。会員などの募金により、ついに3480円70銭、特志寄附金301円67銭、そのほか町内の積立金などを用いて、昭和3年7月に着工し、同年11月に竣工した。こうして拝殿新築費、3752円88銭、記念碑建立費、437円28銭を費やした。聞いたあらすじを記すことで子孫に伝える。

香取神社の石碑

- ◎香取神社には、関東地震の震災復興碑及び震災等によって損害を受け、社殿の建て替えを行った際の建設記念碑がある。
- ◎碑文は次ページのとおりである。



①震災復興碑（「／」は改行）

（上段）震災復興

（下段）翌大正十三年九月一日／改築記念碑／香取社

②香取神社社殿建設記念之碑

香取神社社殿建設記念之碑／当上宇和田は旧渡良瀬川の流域に拓かれ／た
集落にして、古くは宇和田の地の名が／ありました。鎮守香取神社は経津
主神を／主祭神として奉斎し世々村人の篤い崇敬／と信仰により永く護持
されて参りました。／此度改築の社殿は大正十二年九月の関東／大震災更
に昭和二十二年九月利根川決壊／による大水害で損害を受け老朽化甚だし
／く再建念願の処偶々流作鎮座の浅間神社／が御本社境内地に移転し其の
補償金を基／金とし氏子負担奉納金を加えて平成四年／六月着工翌年十月
事業費貳千参百万円を／以て竣工いたしました。／茲に由緒深き産土神を
敬愛し氏子各位の／繁栄を祈念して建設の記といたします。／平成五年十
月吉日 氏子中／撰文宮司小島淳孝

聖福寺の石碑

◎聖福寺には、本寺の歴史が書かれた歴史がある。その中に関東地震に関する記述がある。

◎碑文の関東地震に関する部分の要約は以下のとおりである。



本寺は大いに災厄を受け，損失は多大であった。昭和3年に復興を計画し，施主や信徒たちの協賛が功を奏し，堂宇98坪の修理を昭和6年10月に起工し昭和7年8月に竣工した。

満福寺の石碑

◎満福寺には、関東地震に関わる「延命地蔵尊」を信仰する女性の言い伝えが書かれている石碑がある。

◎碑文の関東地震に関する部分の要約は以下のとおりである。



東京の四谷に住む女性は、日頃から延命地蔵尊の熱い信仰者であった。大正十二年九月一日の関東大震災の前の夜に地蔵尊が夢に出てきて、翌日満福寺へ向かったため、東京で被災することがなかった。これは地蔵尊の加護だと感じ、大正十三年に小堂を建立した。

宝性院の木碑

◎宝性院は、本堂庫裡（本堂の居間）が震災で被害を受け、震災翌年に再建された。その時に寄付金を行った方々の名前が連ねられている木碑がある。

◎合計金額は494円であった。



神宮寺の石碑

- ◎神宮寺には本堂改築碑があり、その中の一部分に関東地震に関する記述がある。
- ◎碑文の関東地震に関する部分の要約は以下のとおりである。



大正十二年九月一日の関東大震災で本堂が大破したが、修理再興した。

浅間神社の石碑

◎浅間神社には関東地震によって神社再建碑がある。

◎碑文の要約は以下のとおりである。



大正12年(1923)9月1日午前11時58分、関東一帯を大地震が襲った。旧幸手町では死者9名、家屋全壊337戸、半壊120戸、神社仏閣学校等の倒壊を加えると472戸が被害を負った。その後も余震が続いたため、人々は屋外での避難生活を余儀なくされた。

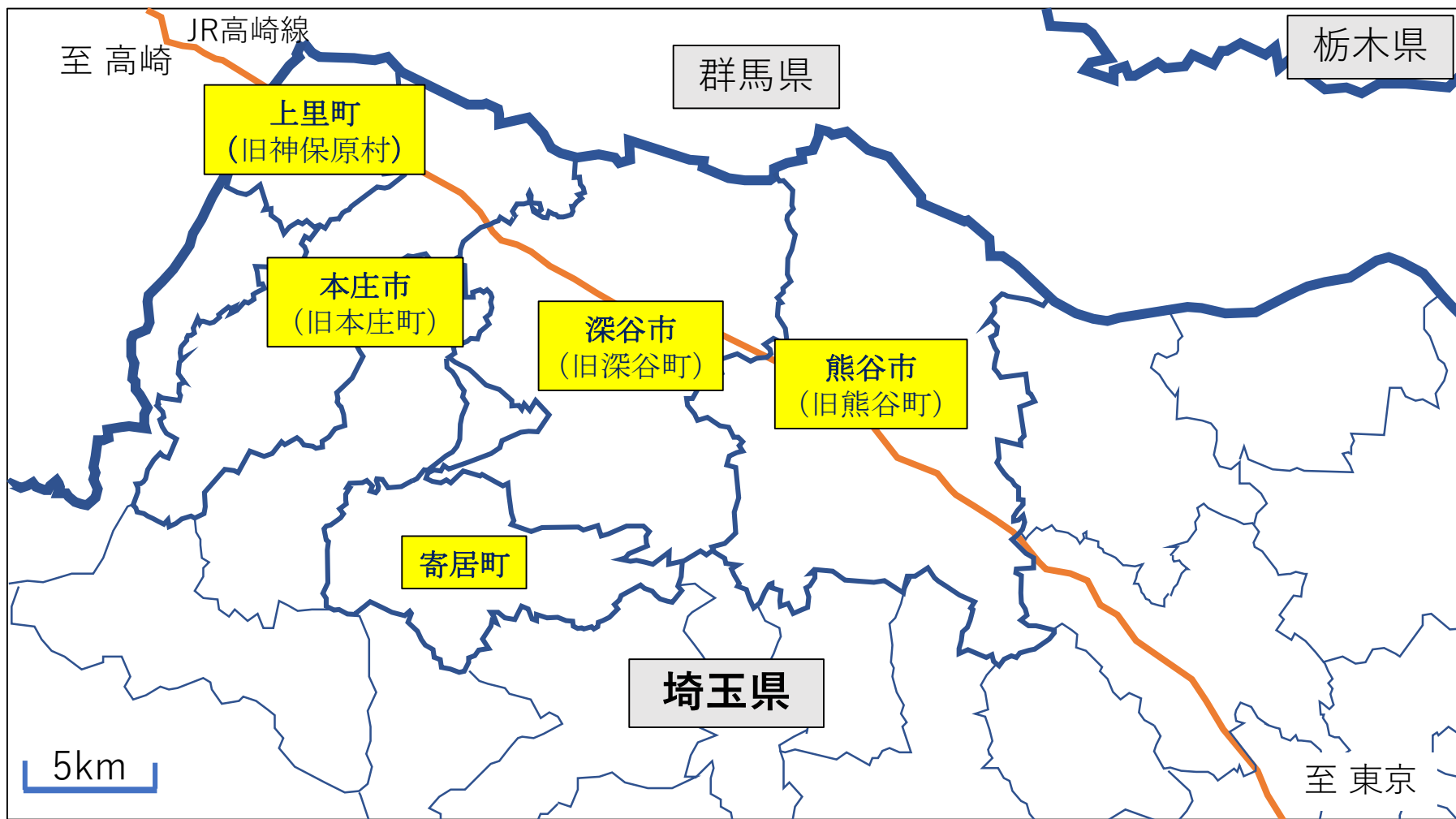
②埼玉県北西部に残る1923年関東地震の記録

◎埼玉県北西部地域（熊谷市・本庄市・上里町・寄居町・深谷市）では、地震の揺れによる被害はごくわずかであったものの、流言による混乱から朝鮮人虐殺事件に発展している。

◎各都市で発生した出来事は、「かくされていた歴史 関東大震災と埼玉の朝鮮人虐殺事件」や、「大正の朝鮮人虐殺事件」に詳細に記述されている。

文献

- ・ 関東大震災六十周年朝鮮人犠牲者調査追悼事業実行委員会，1987，かくされていた歴史 関東大震災と埼玉の朝鮮人虐殺事件 増補保存版，関東大震災六十周年朝鮮人犠牲者調査追悼事業実行委員会
- ・ 北沢文武，1980，大正の朝鮮人虐殺事件，鳩の森書房



埼玉県北西部地域の地図

熊谷市の出来事



熊谷寺大原墓地に建つ供養塔

9月1日…地震発生

9月3日…東京からの避難民及び県の通牒によって流言が伝わる

9月4日…朝鮮人が護送されてきて、虐殺事件発生

9月5日…自警団により、日本人も殺害される

現在、熊谷寺大原墓地には供養塔が建てられており、毎年9月1日には追悼式が行われている。

碑文の要約

大正十二年九月一日の午前十一時五十八分に突如東京を中心に襲った関東大震災は、数万の命が失われ、数百億円の被害が発生し、未曾有の大災害となった。当時は第一次世界大戦の影響で好景気であったが、震災により一時交通機関が完全停止し、多くの流言飛語が流れ、混乱した。震災後、国民は大いに反省し、震災は天罰であると考え、復興に全力を尽くした。当市において亡くなった人々は熊谷寺及び圓光寺の両院に埋葬されたが、将来荒廃することを恐れ、両墓地の遺骨を熊谷寺墓地内に一つに集め、本供養塔を建立した。

本庄市の出来事



本庄市長峰墓地にある慰霊碑

9月1日…地震発生

9月3日…東京からの避難民及び県の通牒によって流言が伝わる

9月3日夕方～9月4日夜…数回にわたって朝鮮人がトラックに載せられて運ばれてくる

9月4日夜…朝鮮人虐殺事件発生

1959年、長峰墓地に慰霊碑が建てられ、毎年9月1日には、本庄市の主催で長峰墓地にて慰霊祭が行われている

本庄市長峰墓地の碑文（「／」は改行）

（表面）

関東震災朝鮮人犠牲者／慰霊碑／日朝協会会長 山本熊一書

（裏面）

一九二三年関東震災に際し朝鮮人が動乱を起そうとした／との流言により東京方面から送られてきた八十六名の朝／鮮人がこの地において悲惨な最期を遂げた これを哀悼／して泰平会社演芸部と本庄新聞記者団が翌年九月鮮人之／碑をここに建立したがこのたび本庄市の援助の下に日／朝両国人有志によつて新たに慰霊碑を建立することにな／つた朝鮮が独立し朝鮮民主々義人民共和国が偉大な建設／を進めつゝあるこの時期に慰霊碑を建立することは 痛／恨の中にも我々の喜びをする所である 我々は暗い過／去への厳粛な反省と明るい未来への希望をこめてこの碑／を建立し日朝友好と世界平和のために献身することを地／下に眠る犠牲者に誓うものである／一九五九年秋 原水爆禁止日本協議会理事長 安井郁 選文



「鮮人之碑」の碑文

(表面)

鮮人之碑

(裏面)

大正十三年九月卯日／本庄新聞記者
団／泰平会社演芸部／建石

太駄収蔵庫に保管されている
慰霊碑『鮮人之碑』

上里町の出来事



安盛寺に建てられている慰霊碑

9月1日…地震発生

9月3日…東京からの避難民及び県の通牒によって流言が伝わる

9月4日…朝鮮人が護送されてきて、虐殺事件発生

9月5日…自警団により、日本人も殺害される

毎年9月1日に安盛寺境内にて慰霊祭が行われている

安盛寺の慰霊碑の碑文

(表面)

関東震災朝鮮人犠牲者／慰霊碑

(裏面上段)

大正十二年関東大震災に際し朝鮮人が動乱を／起したとの流言により東京方面から送られて／来た数十名の人々がこの地において悲惨な最／後を遂げた尔来二十有九年そのまゝに放置さ／れていたのであるがこのたび理解ある日朝両／国人有志によつて慰霊碑を建設することとな／った我々は痛恨の中にもこの碑の建立によつ／て過去の誤ちを再びくりかえすことなく今后／互にアジアの同胞として相親しみ深き反省と／自重とをもつて相たずさえて永遠に平和な東／洋の建設に邁進したいこの碑がその道標とも／なり金字塔ともならんことを祈つてやまない／次第である 文學博士 柳田謙十郎選文／玉翠木村貞次書

(裏面下段)

賛助／埼玉縣／埼玉縣議會／兒玉郡町村長／同議長／同農業協同組合長／日朝有志／一九五二年四月廿日建立／發起／神保原村／賀美村／埼玉縣朝鮮人

寄居町の出来事



正樹院に建てられている
具学永氏の墓

9月1日…地震発生

9月3日…東京からの避難民及び県の通牒によって流言が伝わる

9月5日午後…当時寄居に居住していた朝鮮人の具学永（グ＝ハギョン）氏が、自ら寄居署に保護を求め、保護される

9月6日夜…自警団約200人が押し寄せ、具学永氏は捕まってしまい犠牲となった

まとめ

◎流言は、東京からの避難民だけでなく、県の通牒としても伝えられていたため、流言であることが人々に認識されていなかった。

◎現在はSNSが発達しており、一度流れた流言は瞬時に世界中へ拡散される。流言の扱いは、関東地震で生じたもの以上に慎重になる必要がある。

◎関東地震では虐殺事件にまで発展してしまっただが、これらの流言の怖さ、事件の重大さは世間に広める必要があるだろう。そうすることによって、将来災害が発生した際の流言による被害を徐々に減らして、最終的には無くしていきたいと考えている。

北田家日記から読み取る埼玉県所沢市における
1923年関東地震・1924年丹沢地震の被害と復旧

徳田光希 荒井賢一

発表の目次

石碑と日記から読み取れる1923年9月1日の地震による揺れ・被害・余震



日記から読み取れる1923年9月2日以降の動き



日記から読み取れる1924年1月15日丹沢地震の被害と復旧

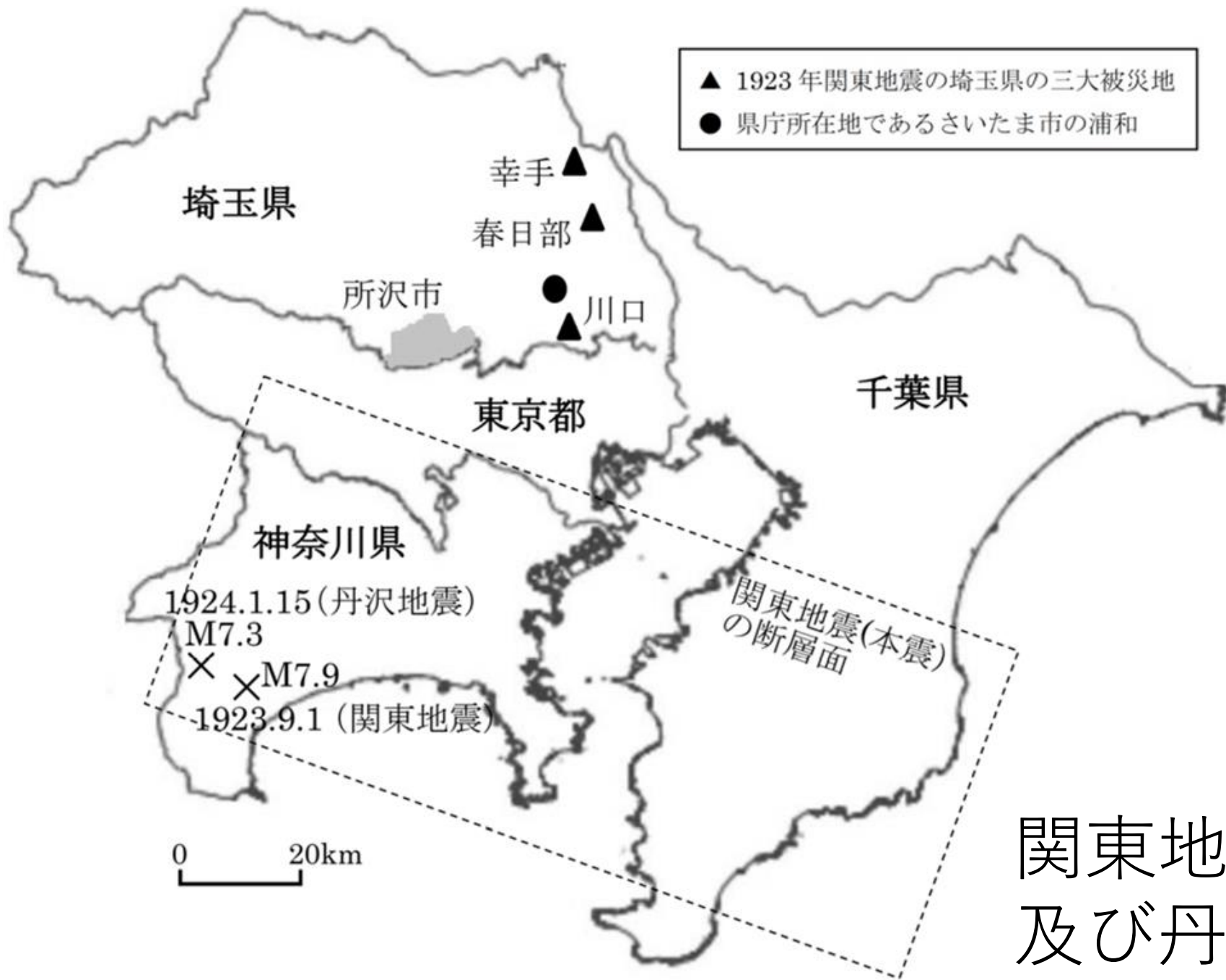


研究を通して自分の考える地震前にやるべきこと

着手したきっかけ

荒井・篠田(2021)に携わり、埼玉県所沢市に残る当時の3家の日記から、地震時の様子を読み取ることに興味をもった。これらの日記をもう少し読み進めることにより、**市民の動きや被害の大きさ、復旧の過程**などを考察したく調べ始めた。

研究は高校理科研究部顧問の荒井先生が行っていた研究で、自分が1年生のときに共同研究として携わり始めたものである。



関東地震の断層面と震源
及び丹沢地震の震源

そもそも日記を研究する意味とは？

- ・ **日記は個人の私物である**ため流言など当時の新聞では消されてしまう情報が書かれている

- ・ 多くの地震研究では震災の被害だけを調べていることが、多いが日記の研究では**長期的な修復**などが、読み取ることができるから

関東地震（1923年9月1日）による所沢市の被害

【石碑の記録】

- 地震により石鳥居が倒壊した
- ずっと放置されていた
- 1959年に石灯籠として再建

後世に語り継ぐため
作られたことを実感

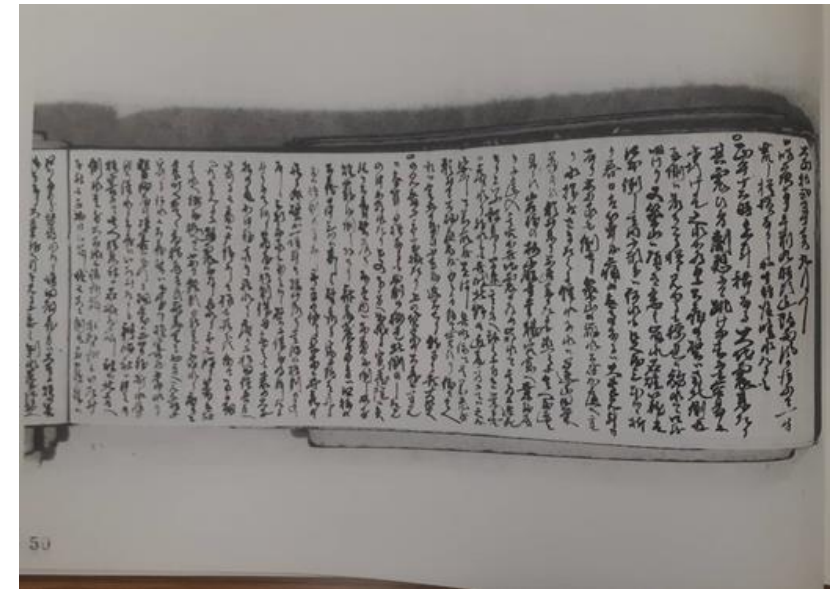


1959年に北野天神社（小手指元町）
に建てられた石灯籠建設碑

関東地震（1923年9月1日）による所沢市の被害

【日記の記録】

- ・ 正午少し前に大きな地震があった。
- ・ 歩くのも困難な揺れであった。
- ・ **墓場の墓が倒れたりや土蔵の壁
石燈籠の破損**などがあった。
- ・ 地面にひびが入って
いるところもあった



北田斧吉氏によって記された
1923年9月1日の日記

【日記の記録】（続き）

- ・午後から夜にかけて十回ほど余震があった。そのうち数回は激しく揺れた。
- ・夜半頃に激しい揺れの余震があるという噂が流れた。

【1923年9月2日の北田家の日記】

- 所沢市市内では度々余震があったがいずれも小さかった。
- 東京の方では今朝まで火災が続いていた。
- 家が壊れて修理のための亜鉛板が多く売れた。
- 銀行が臨時の相談会を開いた。

【1923年9月2日の諸星家の日記】

余震が度々発生している。

また、夕方5時過ぎに警鐘が鳴らされ、**朝鮮人**
数百人が隣接する町で暴動を起こし、所沢方面
へも入ってきたという情報が流れた。この情報
に基づいて、消防組や青年団が集められ、所沢
の町内へ通じる各橋に人員を配置し、夜中の3
時頃まで警戒にあたったものの何も起こらな
かった。

【1923年9月3日・9月4日北田家の日記】

(9月3日)2日から続いて列車が止まっていた。

(9月4日)北田家の土蔵の修復と庭の石灯籠(火袋)の修復を近所の人にしてもらった。

【1923年9月3日諸星家日記】

前日の9月2日の**度重なる余震や流言**による騒動により、かなりの疲労に見舞われ、休養を余儀なくされたことが読み取れる。
この日も、朝鮮人の風評が流言として流れていたようである。

【1923年9月4日諸星家日記】

その翌日の日記本震の発生から3日ぶりに、地震に関する**記載は無くなる**。この日の日記には、**選挙運動**として有力者を巡ったことが記されている。所沢市史編さん室（1984）によると、1924年1月に県会議員選挙が行われ、諸星新助氏は立候補し当選している。

→本震が発生してから3日後には、選挙運動を再開できる状況であったことが伺える。

所沢市周辺の銀行の動き(1923年9月5日での動き)

- ・所沢銀行では東京方面の状況により休業する可能性もあるが通常通り開店した。

- ・八十五銀行(現埼玉りそな銀行川越支店) 払い出し上限百円の設定があるものの通常通り開店した。

- ・飯能銀行払い出し上限五十円の設定があるものの通常通り開店した。

【震災義捐金に関する記録】

(9月10日)震災義捐金を金山町で募ったが思ったより集まらなかった。



(9月11日)他の町の様子を聞き募る額を減額した(一人あたり百円→五十円)

【所沢市市内での復旧・支援に向けた動き】

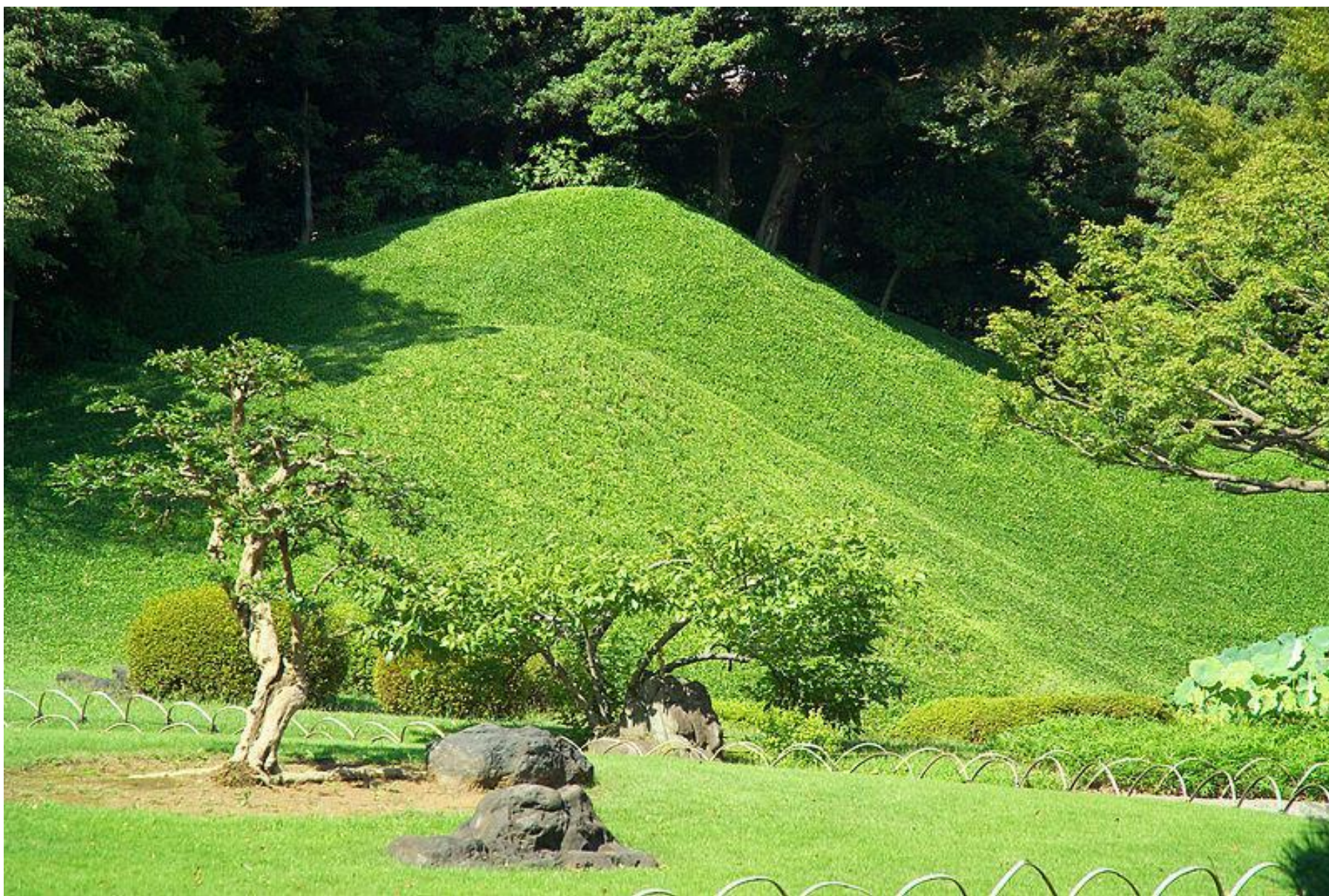
- ・ (9月13日)所沢の青年団が東京方面に**救護班として行くため**に交通費の寄付を募った。
- ・ (9月16日)関東地震によって崩れた石燈籠や寺の墓石を直したりという**復旧**の動きもあった。

10月13日

- ・春日燈籠が地震によって倒れていたのもので**直した**という記述があった。

10月14日

- ・震災で崩れた築山を本日も立て直し震災惨死会の追悼会へ参った。
- ・体操場で震災惨死会が2時頃から開かれたちなみに・・・築山とは北田家の庭にある小さな砂の山のことである



引用

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AF%89%E5%B1%B1#/media/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:KoishikawaKorakuen8965.jpg>

10月14日

- ・震災で崩れた築山を本日も立て直し震災惨死会の追悼会へ参った。

- ・体操場で**震災惨死会**が2時頃から開かれた
上のことは所沢市所沢市生涯学習推進センターの方に
当時の新聞などこのことを書かれているか質問した所
ことようなことがあったかはわからないと言われたので
どのくらいの規模だったかや所沢市内でのものかは**まだわか
らないのもう少し調べなければならない。**

1924年1月15日丹沢地震の被害と復興

北田家日記

今朝6時に**大地震**があった。おそらく、9月1日の（本震の）揺れに劣らないほど大きく揺れた。築山の表面が崩れ庭の裏手の石垣は相当に崩れた。また、灯笼の被害だけで見ると関東地震よりひどかった所もあったそうです。また関東地震によって壊れてしまい、修理をしていた所がまた壊れたと書かれていた。

他に読み取れたこと

北田家日記には関東地震で壊れたものを直したのに、また壊れてしまったと嘆きの声が書かれていた。

諸星家日記・鈴木家日記には強震アリと記述されていた。

丹沢地震（1924年1月15日発生）後の人々の動き

丹沢地震の動きを読み取ると地震により壊れたものがあるものの、**次の日から見舞いに来た人がいる**という記述や小作代の話が出てきたりしていた。

関東地震による所沢市の被害とその後

- ・ 本震の当日は～が倒れた・壊れたという記述が多かった。
- ・ 本震の翌日、**東京方面では火災が続いていた**。所沢市内では余震が時々あるものの、既に復旧に着手されていた。

今後の研究の展望

関東地震が起こってから2ヶ月は調べたが11月12月も調べていきたい。

また、今回調べている日記は龍ヶ崎地震（1921年12月8日）のような大規模ではないが名前がつくような地震は日記に書かれているのか気になるので調べる。

余談となりますが本研究を行っていて僕の考える
今の僕たちが震災に対してやるべき行動

- ・ **近所の繋がり** が大事だなと思います。
→北田家の日記にはよく近所の人が出てきて壊れたときのお手伝いをしている。
さらに近年世の中では地震の後津波が来ているというデマ画像が出回ることがあります。
→コミュニケーションを取れば防げるのでは？

謝辞

所沢市生涯学習推進センターより北田家日記の現物と読み取り文を提供頂いた。

堀井陽澄氏には、北田家日記の解読に協力頂いた。

引用

荒井賢一・篠田海遥・徳田光希・堀井陽澄, 2021,
日記から読み取れる埼玉県所沢市の1923年関東地震
翌日以降の様子, 第38回歴史地震研究会 (P-02)

石碑に記された規模の大きな余震「丹沢地震」 (1924年1月15日に発生、マグニチュード7.3)

大正十二年九月一日ノ大地震ニ我ガ新富士山モ亀裂崩潰ヲ免レズ氏子等慨然ノ起テ復興ヲ計リ全年十二月廿四日工ヲ起シケルガ越テ翌年一月十五日第二回ノ強震アリテ氏子等ガ折角ノ辛苦モ水泡ニ帰セリ然ニ之ガ為ニ失望落膽スルノ者無ク倍々工事ヲ励ミ全年三月十日ヲ以テ竣功セリ實ニ日数三十日人夫二ノ千餘人而モ前ヨリ数尺高クナレリ嗚呼神徳ヤ高シ氏子等ガ協同一致ノ効モ亦偉ナル哉

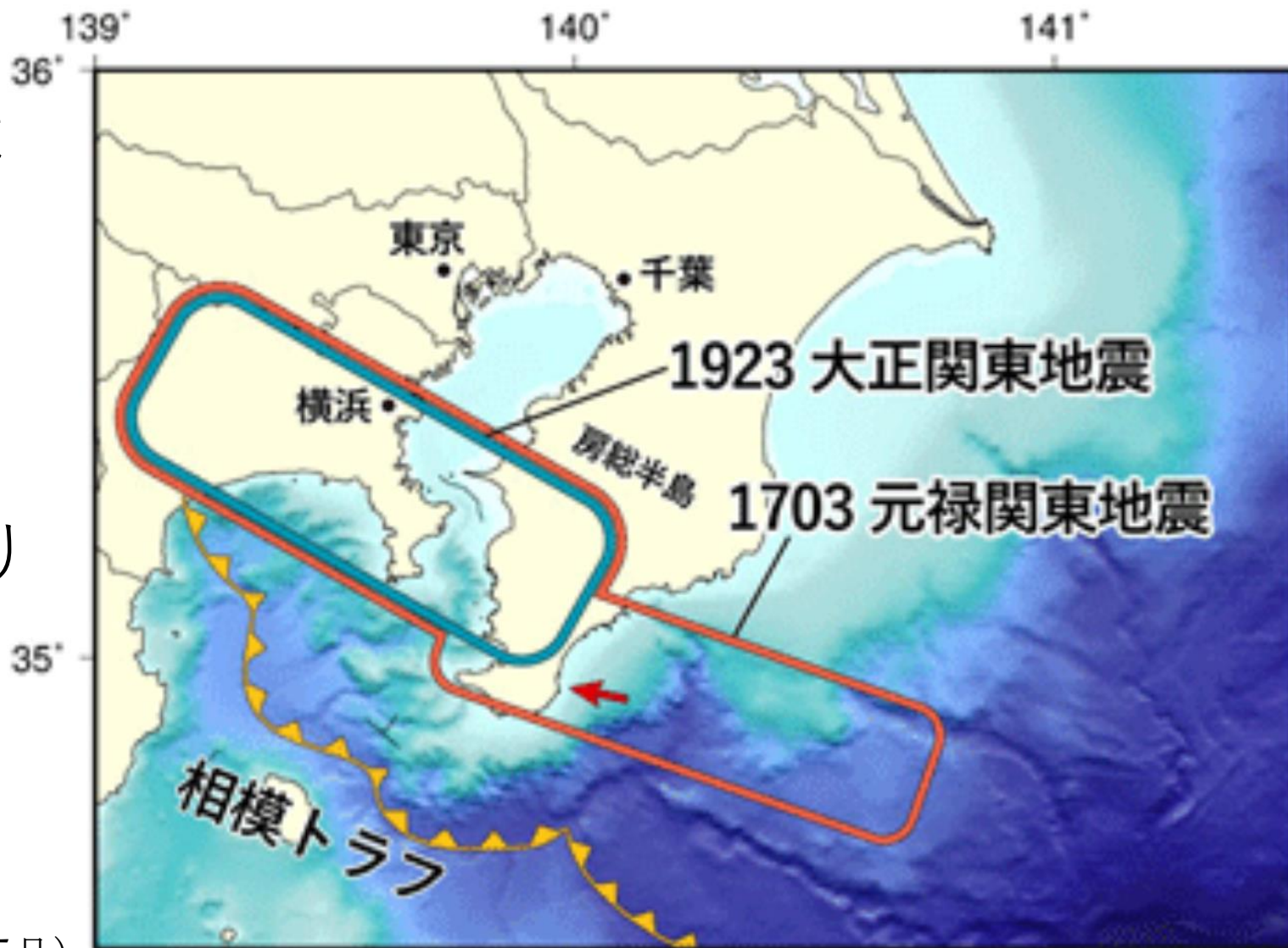
引用： 歴史地震 第36号(荒井・篠田(2021))
埼玉県所沢市に残る1923年関東地震及び
1924年丹沢地震の記録



浅間神社(所沢市荒幡748)に建つ「復興碑」

◎ 『関東大震災二百年』 は注目されるか？

- 関東地震の220年前にはマグニチュード8.2の元禄地震が発生
- 元禄地震による津波は、関東地震による津波より規模が大きかった



引用
産業技術総合研究所のホームページ(2017年5月)

関東地震(1923年)と元禄地震(1703年)の震源

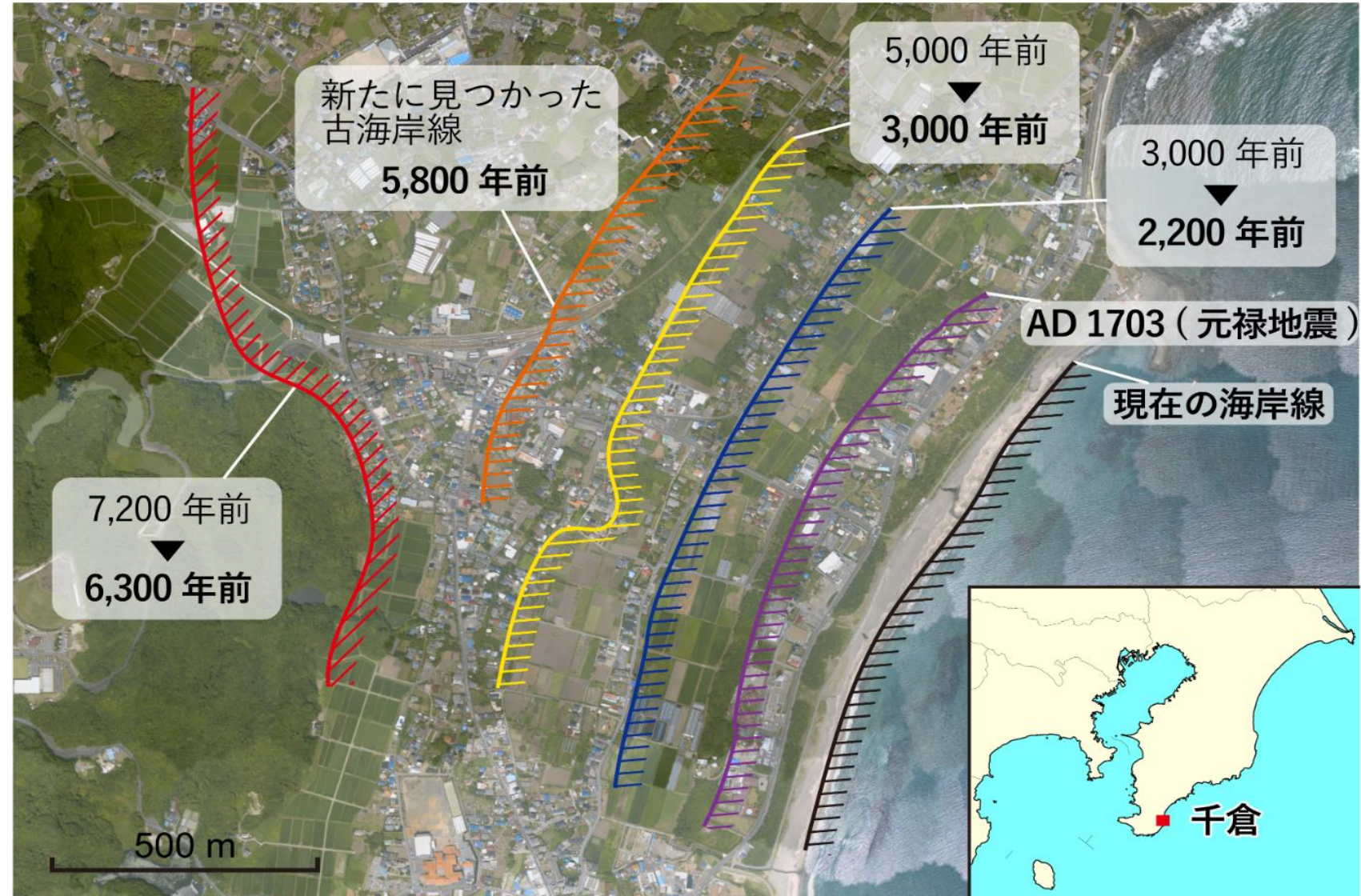
◎おわりに

関東地震のタイプの地震が発生をする度に、千葉県の方総半島(下図)や神奈川県の方三浦半島の方付近は隆起

現在の海岸線と元禄地震による海岸線との間の土地は、1923年関東地震時に隆起

関東地震時の隆起によってもたらされた大地を、居住地や農地として利用

引用
産業技術総合研究所のホームページ
(2017年5月)



関東地震の発生に伴い、
渋沢丘陵の一部が崩落し、
土砂が谷川をせき止めて
できた自然湖



大震災埋没者供養塔



震生湖(神奈川県秦野市)

地盤の固さと地震による揺れやすさを検証する実験
(キッチン地球科学の一例)

